


【国語】 <中学校 第1学年>

1 結果のポイント

- 「聞く能力」については、話し手の意図を考えながら内容を聞く力、話し手がどのような話題を取り上げて話を進めているかを聞く力をみる問題の正答率が90%を上回っており、力が十分身に付いている。他方、事実と意見を関係付けて話を進めているかを考えながら聞く力、説明の仕方や話の進め方を聞く力をみる問題の正答率は75%程度である。
- 「書く能力」については、自分の考えをはっきりさせ、具体例を入れて書く力をみる問題の正答率が70%程度である。他方、文の長さやつながり方に気を付けて分かりやすい文章に書き直す力をみる問題の正答率は60%程度で、力が十分身に付いているとはいえない。
- 「読む能力」については、展開をとらえながら文章を読む力をみる問題など、多くの問題の正答率が70%を上回っており、力が身に付いている。他方、指示語の内容を正確にとらえながら文章を読む力、ものの見方や考え方を理解しながら読む力をみる問題の正答率は60%程度であり、力が十分身に付いているとはいえない。
- 「言語についての知識・理解・技能」については、中学校第1学年までに学習した漢字を正しく読む力、接続語や慣用的な表現を正しく使う力をみる問題など、多くの問題の正答率が90%を上回っており、力が十分身に付いている。他方、漢字の成り立ちや組立てを見付ける力、漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が70%を下回っているものがあり、力が十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 話し手の意図を考えながら内容を聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題>  の一

[場面A] で美化委員長の鈴木さんは、二枚の写真を通してどのようなことを呼びかけていましたか。最も適切なものをア～エから一つ選び、符号で書きなさい。


- ア そうじの時間を充実させようということ。
- イ 美化委員の仕事を活発にしようということ。
- ウ 先生方に喜ばれる環境を作ろうということ。
- エ よりよい校内環境を作ろうということ。

<結果> 正答率 97.9% (正答…エ)

<分析>

この設問は、2枚の写真を使って全校生徒に呼びかける「美化委員長の鈴木さん」の発表を聞いて、何について訴えているかを聞く力をみる問題である。学習指導要領の「話すこと・聞くこと」領域の指導事項に沿った指導が、着実に実践されていると考えられる。また、話し手が取り上げている話題をとらえる問題の正答率も高く、「聞く能力」は十分身に付いていると考えられる。

(2) 展開をとらえながら文章を読む力をみる問題の例（「読む能力」）

<問題>  の一

文章中の(①)(②)の中に当てはまる言葉の組み合わせとして、最も適切なものをア～エから一つ選び、符号で書きなさい。

- ア ①でも ②したがって
- イ ①あるいは ②したがって
- ウ ①でも ②あるいは
- エ ①ところで ②あるいは

<結果> 正答率 89.6% (正答…ア)

<分析>

この設問は、適切な接続語を入れることができるかを問うことで、展開を考えながら文章を読む力をみる問題である。「読む能力」の問題の中で最も高い正答率となっており、正答した児童は、①の逆接、②の順接のつながりをとらえることができている。文と文とのつながりに注意しながら文章の展開をとらえる力が十分身に付いていると考えられる。

(3) 文の長さやつながり方に気を付けて、分かりやすい文章に書き直す力をみる問題の例

(「書くこと」)

<問題> 四

次の文章は、来年度の新生に向けた体育祭の紹介文です。

体育祭は九月の中旬に行われます。二学期の開始と同時に各学級では練習が始まります。私たちの学校を一年の中で最も熱くするのがこの体育祭で、「総合優勝」を目指して各学級が団結して全力をつくすのですが、クラスがまとまって一生懸命になれるのは、「総合優勝」が唯一の賞だからです。

三つ目の文(私たちの学校を・・・)は長すぎて分かりにくいので、三つの文に分けることにしました。次のことに気を付けて順番にそれぞれの文を書きなさい。

- ・文章全体の意味や、説明する順序を変えないで直すこと。
- ・三文目は「このように」を書き出しにして、そのあとにつなげて書くこと。
- ・必要に応じて適切な言葉に直すこと。
- ・それぞれの文末は、他の文の文末と同様に丁寧な表現にすること。

<結果> 正答率 59.9%

<分析>

この設問は、文の長さやつながりに気を付けて、短い文に書き直す力をみる問題である。五「指定された条件に従って自分の考えを書きまとめる問題」の正答率が70.3%であるのに比べ、低い正答率となっている。自分の考えを書きまとめる力に比べ、長い文を簡潔で分かりやすい文章に分けて書く力が十分身に付いていないと考えられる。誤答の主なものは、語句の省略で文意が変わってしまったもの、主述が対応していないもの、自分の考えや思いを表す言葉を入れてしまっているもの等である。問題に示された条件の「必要に応じて適切な言葉に直すこと」を適切にとらえられなかったことや、主述の対応等、言語事項に関する力が十分に身に付いていないと考えられる。

(4) 小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題の例(「言語に関する知識・理解・技能」)

<問題> 三 の一の6、10

次の文中の_____線部について、漢字は平仮名に、カタカナは漢字に直して書きなさい。

6 セキニン感の強い人。

10 パーティーにマネかれる。

<結果> 正答率 6:79.5% 10:59.6%

<分析>

この設問は、小学校で学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。いずれも昨年度と同一の問題であったが、6の昨年度の正答率は75.9%で、今年度はやや高くなっている。日常生活において、よく使う漢字は正しく書く力がおおむね身に付いていると考えられる。10の昨年

度の正答率は59.3%で、ほぼ同じ正答率である。6に比べて正答率が低いのは、日常生活における使用頻度の差であると考えられる。また、熟語よりも、1字で問う問題の正答率が低い傾向にあり、今後の指導において留意していく必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・年間指導計画において、「書くこと」の指導事項「エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。」「読むこと」の指導事項「ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。」「オ 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること。」を丁寧に扱う必要がある。
- ・単元の指導目標と評価規準を明確にし、ねらいとする言語能力を身に付けた生徒の姿を具体化する必要がある。また、単元の導入の仕方を工夫し、生徒にとって必然のある学習にするとともに、身に付けた力を生徒自身が自覚できるよう、単元の終末の学習活動を工夫する必要がある。
- ・漢字の学習に興味・関心がもてるよう魅力ある時間を設定するとともに、小学校の学習を踏まえ、繰り返し学習できるよう配慮する必要がある。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」の指導においては、事実をもとにしながら考えや意見を明確にして話す力や、それを的確に聞き取る力を一層高めるために、事実の効果的な配列の仕方を考えさせたり、話全体の構成を工夫させる指導が必要である。その際、モデルとなる参考作品を示したり、音声だけでなく文字化した資料で考えさせる等を工夫することが大切である。また、言語活動が形式的なものになると生徒の学習意欲が低下するので、相手や目的を明確にし、話し手と聞き手との関係が明確な言語活動となるよう配慮する。
- ・「書くこと」の指導においては、生徒がもっている興味・関心、必要感を生かしながら、書く力を高める指導を引き続き大切にする。体験的・具体的な事実に基づいて自分の考えや感想を書く活動を位置付けたり、日常生活で関心を抱いたこと・疑問に思ったこと等をメモする習慣を身に付けさせたりするなどの工夫をする。また、推敲力を一層高めるために、書いた文章を読み返す習慣の定着を図るとともに、推敲の観点を明確にし、どこをどのように推敲するかを明確にした指導をする。
- ・「読むこと」の指導においては、叙述に即して正確に読み取る力を一層高めるために、言葉と言葉の関係付けて読み取る力を高めることを大切にする。その際、叙述の細部だけでなく、場面や段落といったより大きな言葉のまとまりの意味や働き、相互の関係を把握させることが大切である。特に留意すべきことは、当該教材の内容把握に止まらず、他の文章にも適用し得る読み取りの方法として一般化していく指導が大切である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・国語科の授業で身に付けさせた力を、他教科の授業、総合的な学習の時間、日常生活等でも発揮させ、定着を図るように配慮する。
- ・辞書類の使用や、学習した漢字を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、教室の掲示物の文字等にも配慮できる学習集団を育成する。
- ・国語科のみならず他教科においても学校図書館が積極的に活用されるよう、全校体制で取り組むことが大切である。